

ごん が い せき ぐん
恒 川 遺 跡 群

平成9年度 範囲確認調査概要報告書

1998年3月

長野県飯田市教育委員会

ごん が い せき ぐん
恒 川 遺 跡 群

平成9年度 範囲確認調査概要報告書

1998年3月

長野県飯田市教育委員会

序

座光寺地区は、古くから文化の開けた土地で古墳はじめ各時代の遺跡があります。当恒川遺跡群は国道153号バイパス建設に先立つ調査で、古代伊那郡衙址の所在した場所と確定されました。昭和57年度から国・県の補助を受けて重要遺跡範囲確認調査を実施中で、本年度は15年目になります。

平成4年度には、中間的な総括を文化庁の松村恵司先生・奈良国立文化財研究所の工業普通先生・山中敏史先生や県市の関係者など22名で実施し、「ほぼ郡衙に間違いは無いが決め手に欠けているので確証を把握してほしい。」との方向づけがなされました。

平成6年度調査の築師垣外地籍内において郡衙の正倉が確認され、古代伊那衙址の存在する遺跡であることが確定しました。今後はその範囲と政庁の位置の追及が課せられ、平成7年度の調査では古瓦が出上った溝を確認しました。この溝は、今までの調査の結果を併せて判断すると、郡衙の西側を区画するものと考えられます。

平成8年度には、古瓦出土の溝の延長部の確認と正倉の連続性把握のための調査を行ない、所期の目的を達成しています。

本年度調査箇所は、正倉の所在確認された地点に連続した土地において、正倉の連続性と、周囲を区画する溝の延長部を確認するため調査を行ないました。

一方、恒川遺跡群一帯は、宅地・店舗等の民間の開発が著しく、遺跡の保護には重大な局面を迎えています。それらの開発にあたっては、緊急発掘調査による対応に努めているところですが、抜本的な保護を講ずるには至っておりません。結局、本調査の本旨である範囲と内容の把握が、早急に求められていることはいうまでもありません。

そのため、発掘場所等検討しながら今後も引き続き調査を進め、1日も早く古代伊那郡衙址の姿をまのあたりにすることを希求してやみません。

最後に、本年度の範囲確認調査を実施するにあたり、多くの方々のご理解、ご協力をいただきました。土地を提供していただいた地権者及びご迷惑をおかけした隣接地の方々、また調査に従事していただいた作業員の方々ほか関係者各位に深く感謝を申し上げます。

平成10年3月

飯田市教育委員会

教育長 小林 恭之助

例 言

1. 本書は古代伊那郡衙址の内容解明と保護を進めるため、国・県の補助を受け平成9年度に実施した恒川遺跡群範囲確認調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は飯田市教育委員会と直営事業として、地元座光寺地区ほか多くの方々の協力を得て実施した。
3. 調査組織は以下のとおりである。

(1) 調 査

総 括 小林正春

調査担当者 福澤好晃

調 査 員 佐々木嘉和・吉川 豊・山下誠一・馬場保之・吉川金利・伊藤尚志・下平博行

作 業 員 新井幸子・伊坪 節・伊藤孝人・井上恵資・今村勝子・太田沢男・岡田直人
岡田紀子・北原 裕・木下貞子・木下義男・木下力弥・熊谷義章・熊崎三代吉
小島康夫・佐々木一平・佐々木文茂・清水三郎・下沢和央・代田和登・杉山春樹
瀬古都保・田中博人・仲田昭平・中平隆雄・中山敏子・服部光男・原田四郎八
榎本宣子・福沢トシ子・古林登志子・細井光代・牧内 修・正木実重子・松下成司
松下光利・三浦照於・柳沢謙二・山田美保子・吉川正実・新井ゆり子・池田幸子
伊東裕子・金子裕子・唐沢古千代・木下玲子・小平晴美・斉藤徳子・佐藤知代子
橋子賀子・田中 薫・中平けい子・平栗陽子・福沢育子・星野昌幸・牧内八代
松島直美・宮内真理子・森藤美知子・小平不二子・藤田浩明・米山俊輔

(2) 指 導

文化庁・長野県教育委員会文化財保護課

(3) 事 務 局

飯田市教育委員会博物館課

小畑伊之助(博物館課長)	小林正春(埋蔵文化財係長)	吉川 豊(埋蔵文化財係)
山下誠一(埋蔵文化財係)	馬場保之(埋蔵文化財係)	吉川金利(埋蔵文化財係)
福澤好晃(埋蔵文化財係)	伊藤尚志(埋蔵文化財係)	下平博行(埋蔵文化財係)
牧内 功(庶務係)		

4. 本書は福澤好晃が執筆・編集し、小林が加筆訂正・総括を行なった。
5. 調査地点の番号は本調査が継続事業であり、遺跡群総体を検討する時点での簡略を図るため、昭和57年度以降連続した番号をもちいた。本年度調査地点は第22地点(YKS4733)である。調査区の名称及び遺構番号は以前の調査からの一連番号とした。
6. 調査区は飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づくグリッドを(株)ジャステックに委託し設定した。
7. 本調査で出土した遺物及び記録された図面・写真類は、飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

目次

本文目次

序

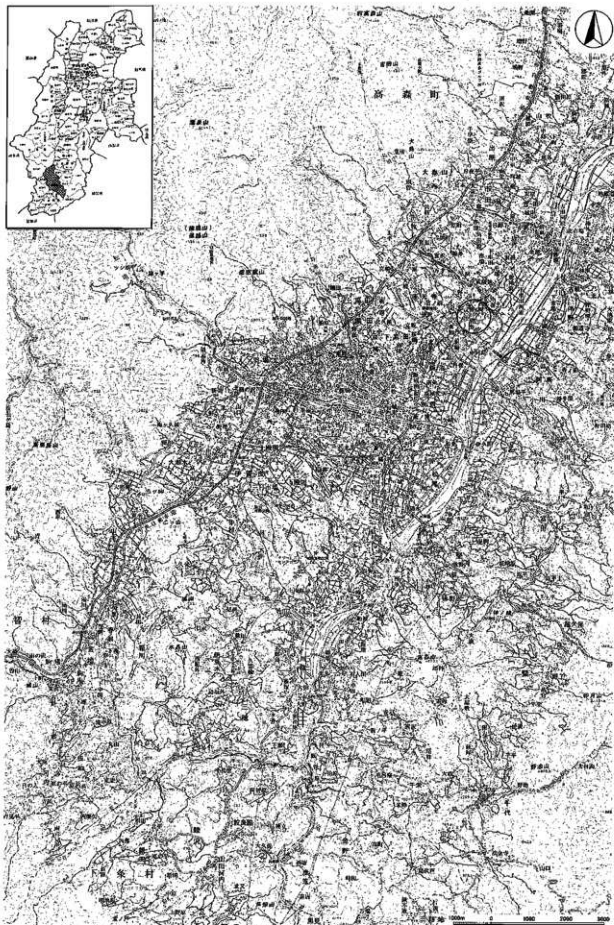
例言

目次

(1) 調査地点の概要	1
(2) 調査の結果	1
(3) まとめ	2
(4) 写真図版	7
(5) 抄録	9

挿図目次

第1図	恒川遺跡群位置図	
第2図	調査位置及び官衙的遺構分布概要図	3
第3図	平成9年度調査位置図	4
第4図	YKS4733周辺地形図	5
第5図	YKS4733遺構分布図	6



第1図 恒川遺跡群位置図

I. 調査地点の概要

今回の調査は、平成5年度に民間の工場建設に先立って緊急発掘調査を実施した座光寺4746番地1の薬師垣外遺跡の南側隣接地において行なった。

4746番地1は、調査の結果、4×4間の総柱建物跡とそれを建て替えたと考えられる建物址が確認された。その時点で具体的な内容まで考究できなかったが、その後平成6・7年度に北西側の一帯で前述建物址とほぼ方向を一致させる総柱掘立柱建物址を連続した状況で確認することができたことにより、本地点の建物址も含め、それらが同一方向に並んだ郡衙の正倉群であると判断するに至っている。

今回の調査地点は、4746番地1からは畑1枚を挟んで10m程を隔てた場所であり、関連する建物もしくは北西側の調査地点で確認されている区画施設としての溝址の存在することを予想して調査を実施した。

II. 調査の結果

今回は、遺構の分布状況を確認することを主眼に面的な調査を実施した。検出作業の結果、住居址等は掘り込みが浅く、確認して埋め戻しを行っても後に把握することが困難な可能性が高く、完掘することとした。また、溝址についてもその性格や詳細時期について把握するために掘り上げた。

調査の結果、竪穴住居址2棟 (SB45・SB47)、小竪穴1基 (SB46)、溝址2条 (SD33・SD34)、集石墓1基 (SI01)、その他小柱穴が検出された。

竪穴住居址SB45はごく一部を調査できたのみで詳細時期は十分に把握できなかったが、古墳時代後期から中世の遺物が出土している。埋土出土の古瓦の瓦当が特筆される。SB47は検出面から床面まで浅く、やはり詳細時期は不明であるが、奈良時代かと考えられる。

小竪穴は、SB47を切り、床面より浮いた状態で径20～30cm程度の円礫が投棄されている。出土遺物はほとんどなく、時期等詳細は不明である。

溝址SD33は調査区西際から検出され、深さ約30cmを測る。一方の肩は調査区外にかかり、幅は把握できなかった。SD34は蛇行する。いずれも埋土が砂礫であり、自然流路で、時期は中世と考えられる。

SI01は遺構の形態や炭化物が混じる状況から集石墓と判断された。

Ⅲ. まとめ

今回の調査地点の調査結果は前述のとおりであり、それから判断される本地点の位置付けを若干整理すると以下のである。

今回の調査で確認された遺構は、竪穴住居址・小竪穴等であり、奈良時代の可能性もあるのは、SB47のみである。官衙的遺構は皆無であり、第6地点及び第11地点の遺構の検出状況と類似している。すなわち、郡衙として機能した期間中には、官衙の外縁部分の居住空間であった可能性が高い。また、第11地点の北端で検出された正倉群の南側を区画すると考えられる溝址11の延長は確認できず、平成5年度に緊急発掘調査された4746番地1の調査地点との間にある可能性が高い。溝址はいずれも自然流路で、第8地点で確認された溝址3や4746番地1緊急調査地点の調査状況から、この付近には中世に自然流路があったことが判明した。

官衙等に関連すると考えられる遺物には古瓦の瓦当出土があり、これまで当遺跡群内で出土した西三河の北野庵寺系の瓦とは異なっている。また、復元される大きさはこれまでの瓦当よりも大きいものである。これに関連すると考えられる遺構は確認できず、また、これまで本地点周辺では瓦出土はみていない。4746番地1緊急調査地点の正倉と考えられる礎石建物址と何らかの関係を有するのか、あるいは本地点南側に官衙的施設があるのか等々、可能性は幾つかあるが、現段階ではその位置づけは困難といわざるを得ない。

今回の調査結果のみでは、郡衙の状況はなお不明といわざるを得ないが、昭和57年度から実施している本事業に関連した調査及び周辺の諸開発に先立つ緊急調査の結果を総合することにより、おぼろげながら推測できる段階に至っているといえる。

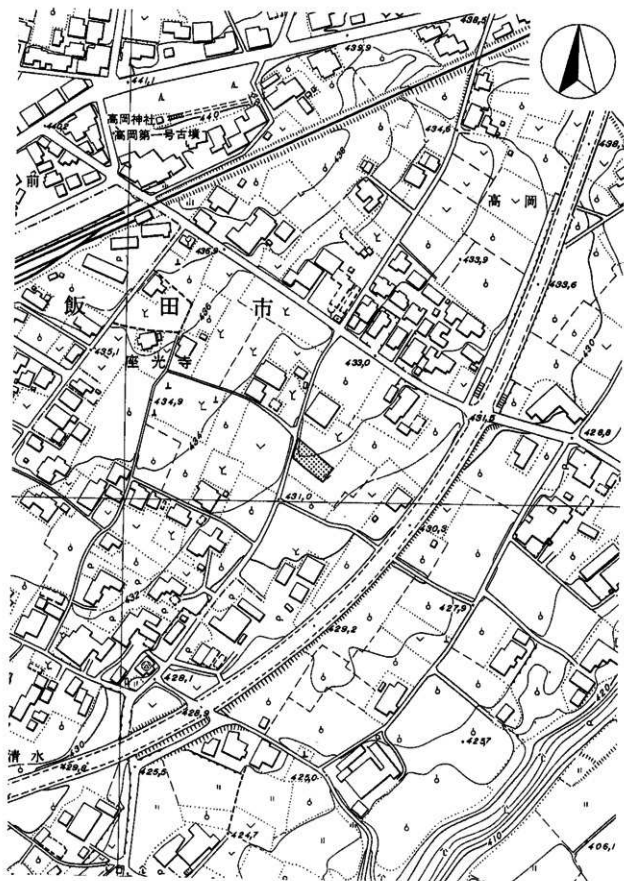


- | | | | |
|-----------------|------------------|------------------|------------------|
| 1. 第1地点 (57年度) | 2. 第2地点 (57年度) | 3. 第3地点 (57年度) | 4. 第4地点 (57年度) |
| 5. 第5地点 (58年度) | 6. 第6地点 (58年度) | 7. 第7地点 (59年度) | 8. 第8地点 (60年度) |
| 9. 第9地点 (60年度) | 10. 第10地点 (61年度) | 11. 第11地点 (62年度) | 12. 第12地点 (63年度) |
| 13. 第13地点 (元年度) | 14. 第14地点 (2年度) | 15. 第15地点 (5年度) | 16. 第16地点 (6年度) |
| 17. 第17地点 (6年度) | 18. 第18地点 (7年度) | 19. 第19地点 (7年度) | 20. 第20地点 (8年度) |
| 21. 第21地点 (8年度) | 22. 第22地点 (9年度) | | |

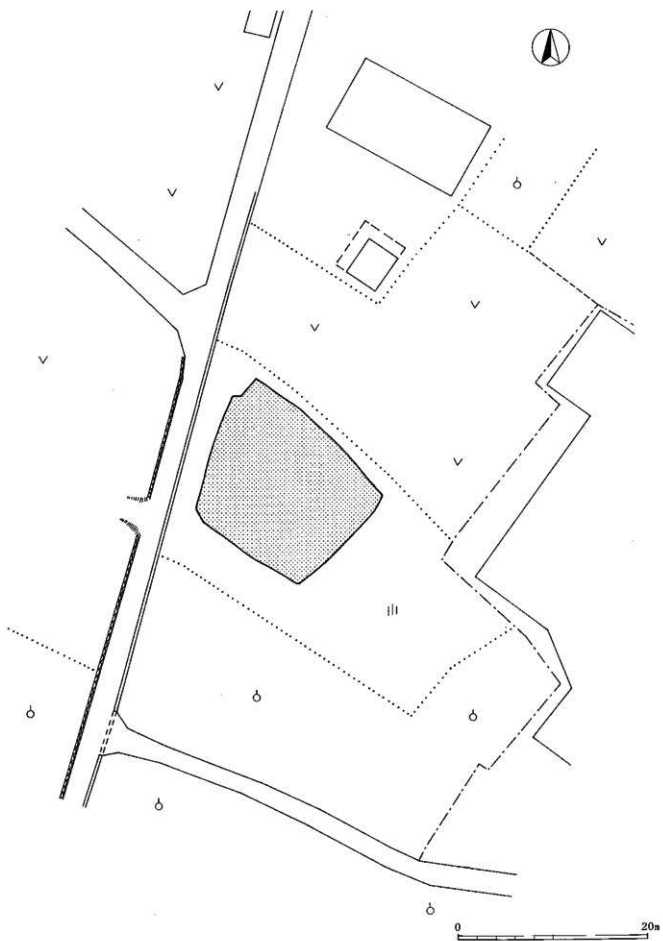
A・B. 新屋敷遺跡獨立柱建物址 C・D. 恒川B地籍獨立柱建物址群

E. 恒川A地籍獨立柱建物址群 F. 田中地籍獨立柱建物址群

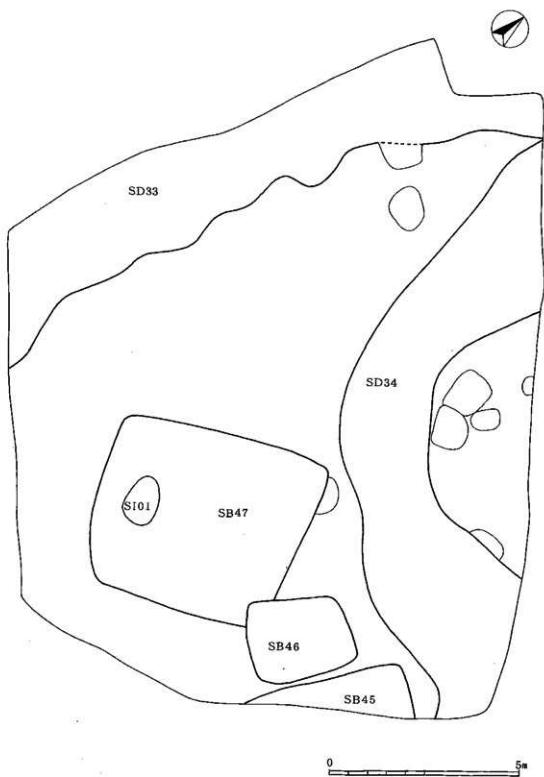
第2図 調査位置及び官衙の遺構分布概要図



第3図 平成9年度調査位置図



第4図 YSK4733周辺地形図



第5圖 YSK4733遺構分布圖

写真図版



調査前



調査スナップ



重機作業スナップ



基準点測量作業スナップ

報告書抄録

ふりがな	ごんがいせきぐん やくしがいといせき							
書名	恒川遺跡群 薬師垣外遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	福澤好晃							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395-0002 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 tel 0265-53-4545							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
ごんがいせきぐん 恒川遺跡群 やくしがいといせき 薬師垣外遺跡	いいだしごこうじ 飯田市座光寺	2053		35° 31' 47"	137° 52' 3"	平成10年 3月12日～ 平成10年 3月31日	406m ²	重要遺跡 範囲確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
恒川遺跡群 薬師垣外遺跡	郡衙址	奈良時代 ～中世	竪穴住居址 小竪穴 溝址		土師器 須恵器 瓦			

恒川遺跡群

平成9年度 範囲確認調査概要報告書

発行日 平成10年3月31日

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145
飯田市教育委員会

印刷 株式会社ジャステック
クリエイティブ・センター

